

みちのく

ココロとカラダの癒し旅

オフシーズンこそ温泉へ！

統計（日本国勢図会地域統計版「県勢」2002）によれば、秋田県の温泉地数は百七十七カ所で全国第六位なのだそう。旅行というほど大げさに考えなくとも、ふらりと足をのばせばより取り見取りに温泉ライフを楽しめるのが、秋田暮らしのだいご味の一つといえるのではないだろうか。

田沢湖町の田沢湖高原は、秋田県内でも温泉施設が最も集積しているエリアの一つ。駒ヶ岳の山ろくに、新旧大小取り混ぜて五十余りの温泉宿が点在している。全山燃えるような紅葉の季節も過ぎ、ブナなどの木々は葉を落としはじめている。もうすぐ高原は白一色になるのだが、その森閑とした初冬の高原温泉は行楽シーズンのにぎわいとはまた違った趣があつて味わい深いものである。

日増しに寒くなっていく季節に、人陰もまばらな温泉を訪れ、白濁した天然温泉につかり、からだの芯からじんじんと温まり、「ああ極楽極楽」とつぶやいてみたいものだ。

秋田県田沢湖高原温泉郷 田沢プラトールホテル



会食場には囲炉裏が切つてある。これだけの本格的な囲炉裏の会食場も珍しい季節によって中身が異なる鍋。取材時は鴨鍋だった



囲炉裏でバーベキュー感覚で焼き物を楽しむ。中居さんが焼いてくれる



いろいろ 囲炉裏で食べる食事の楽しさ

かつて田沢湖高原の温泉といえは、古くから湯治場としてにぎわっていた乳頭温泉郷のみであったが、今から四十年ほど前に乳頭温泉郷の手前に町が分譲する形で田沢湖高原温泉郷が開かれた。東京オリンピックが開催され東海道新幹線が開通した時代だ。そんな時代背景もあって、団体旅行客主体の大型温泉ホテルが中心の温泉郷になった。

その一角をなす田沢フラットホテルは昭和四十八年の開業。温泉郷内では後発のこのホテルは、なかなかユニークな温泉宿だ。

まず一番に驚かされるのが食事の趣向。食事は朝夕とも会食場になるのだが、この会食場は全体が板の間で多数の囲炉裏が切られており、部屋ごと一つ一つの囲炉裏を囲んでの食事となるのだ。体験してみると分かるが、ここでの食事には「おいしい」という要素の他に、「楽しい」という要素が加わる。

温泉宿の料理は、どこでも大同小異になりがちだが、この宿の食事が永く思い出深いものになることは請け合いたい。そのことを先読みして、たとえば結婚記念日などのメモリアルな旅行で利用してみるのもいいのではないだろうか。



朝食も同じ囲炉裏端で



きりたんぽの味噌田楽と鮎の塩焼き

あきたこまちの新米を使ったきりたんぽも自家製



別荘感覚でゆったり
くつろげるコテージ
「ヴィラージュⅡ」

館主のこだわりはなかなかのもの
で、会食場の隣には本格的なかまどを
あつらえて、釜であきたこまちを炊い
ている。このご飯と自家製の漬物はセ
ルフサービスで食べ放題。遠来の旅行
者の中には「せいかく秋田まで行くの
だからおいしいご飯を食べてみたい」と
いう人もいいるだろう。そんな人にはこ
の宿を推薦してまず間違いない。
大自然のまっただ中にある宿だか
ら、周辺の山中から自然の食材を調
達したりそれを料理して提供するの
もこの宿の料理人たちの大事な仕事
だ。取材時の鍋物は鴨鍋だったが、こ
れからの季節はきのこ鍋になるとい
う。また、春には、山中から採ってきた
タケノコや山菜を天ぷらにして出して
いるのだとか。

温泉大浴場もなかなか魅力的なも
のだ。正面がブナの原生林になってい
て、壁一面の広いガラス窓越しに四季
折々のブナの表情を借景にしなが
らの湯浴みはとてもぜいたく。単純硫黄
泉独特の硫黄臭も、温泉好きにはた
まらない。
この大浴場の他に、別館に貸し切り
露天風呂、また、敷地内の湯小屋の中
にはユニークな樽風呂がある（これも
貸し切り）。貸し切り風呂というのは、
恋人や夫婦、あるいはヤングファミリー
で水入らずで楽しめるという魅力も
あるが、高齢者など介添えが必要な
家族と一緒に旅行にも何かと重宝だ

風呂と部屋のバリ干しン



ご飯は会食場横に作ったかまどで炊いている



自家製の漬物はセルフサービスでお好きなだけどうぞ



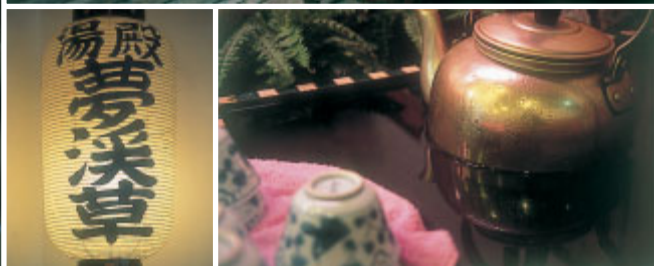
山ぶどうを色づけに使った
自家製の「ダイコンのぶどう漬」



別館の貸し切り露天風呂



敷地内のブナ林の中にあつらえられた樽風呂。こちらも貸し切りで利用できる



風呂上がりに冷たい麦茶をどうぞ





赤い鳥居が印象的な田沢湖畔の御座石神社



サボカルチャーパークにて



ブナ原生林が美しい田沢湖高原の道



晩秋のたたずまいの乳頭温泉郷



ヴィラージュⅡの室内。天井の高い贅沢な空間

冬には冬のお楽しみ

オフシーズンの温泉旅では、周辺観光を欲張るよりも、できるだけんびりとした時間を過ごすのがいいだろう。ただ、それでは物足りないという人は、たとえばプラトーホテルを拠点にしながら乳頭温泉郷の秘湯巡りというのも面白いだろう。いつも温泉ファンでうた返している鶴の湯なども、これからの季節はしばしの静寂が訪れる。こういう季節こそ、ひなびた秘湯情緒を堪能できるというものだ。

また、スキーシーズンになればホテルから徒歩で五分ほどのところに田沢湖高原アッスルススキー場がオープンする。ホテル宿泊客には一日券の割引もある。初心者向きのなだらかなゲレンデがメインのスキー場なので、ビギナーやフランクのある人を誘って出かけてみてはいかがだろうか。

(文：写真：かとう・ゆうえ) 秋田市

ろ。客室のタイプを好みや予算で選べるのも魅力。一泊一〇、五〇〇円のバストイレなしの和室から、ツインベッド・トイレ付きの洋室(別館)、トイレ付き和室、そして一泊一五、〇〇〇円のバストイレ付き本館和室またはコテージと、料金体系は四パターン。この宿泊料金は、季節や曜日、宿泊人数での変動は一切ない。コテージ「ヴィラージュ」と別館では、ペット同伴の宿泊も受け付けており、昨今のペットブームもあって利用客は少なくないらしい。

ドライブ・インプレッション

今回の取材車は 日産エルグランド

8人乗り(7人乗りもあり)のハイクラスミニバン。同じ乗車定員でもっとコンパクトなクルマや低価格のクルマもあるが、室内空間の広さや快適さで一切の妥協のない贅(ぜい)を凝らした“移動手段”として、これほど魅力的な



クルマも珍しい。ふかふかのソファを配した「走る応接室」といったおもむきで、長時間の乗車でも窮屈な思いをしたり疲れたりすることも少ない。ミニバンならではの視線の高さは風景を楽しみながらのドライブにも向いている。意外なほどのきびきびとした走りも印象的だった。

(取材車提供/日産プリンス秋田)

TAZAWA PLATEAU HOTEL

施設のご案内

- 客室 31室(バス・トイレ付12室、トイレ付2室)
- 宿泊人員 一般150名様、団体160名様
- 湯殿「夢溪草」単純硫化水素・泉温55度、男女各1
- 会食場「ふるさとともし火の間」いろいろで会食
- ゲームコーナー
- フォレストパーク「ぶなの森」
- レストラン「ぶなの森」
- 総ヒバつくり樽風呂(貸し切り)
- 駐車場 バス10台

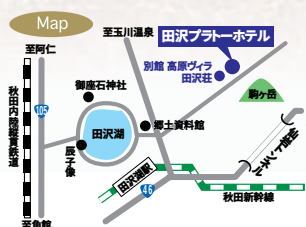
お一人様1泊2食付
10,500円～15,000円(税別)
※部屋タイプにより異なります。



田沢湖角館間のR46では秋田新幹線と併走する



水沢温泉郷の一隅にある友情の滝



十和田・八幡平国立公園 田沢湖高原温泉郷 田沢プラトーホテル

〒014-1201 秋田県仙北郡田沢湖町生保内駒ヶ岳2-36

TEL.0187-46-2331

Fax.0187-46-2333

ホームページアドレス
<http://www.plateau.jp/>